



高見島 3 龍王山

龍王山(297.3m)には、宮があり雨乞いや大漁祈願の祭りが行われています。また、山頂からは弥生土器が見つかっており、弥生中期の高所遺跡があります。頂上付近にある龍王宮社叢は県指定文化財となっています。



高見島 4 高見八幡

浜集落の高見八幡には模型と船が1755年(宝暦5年)に奉納されており、この模型は弁才船の縮尺10分の1の精巧な模型で、享保年間以降の特徴をはっきり示しています。



弁才船の模型、現在は、多度津町立資料館に展示しています。(県指定文化財)

お粥を作るとき、
水ではなくお茶で作ります。
お茶の香りのするおいしく、
さっぱりとした料理です。

郷土料理「茶粥」

島の味



高見島

[所在地] 香川県仲多度郡多度津町
 [面積] 2.35km²
 [世帯数] 19世帯
 [人口] 27人(平成27年国勢調査)



佐柳島

[所在地] 香川県仲多度郡多度津町
 [面積] 1.83km²
 [世帯数] 51世帯
 [人口] 72人(平成27年国勢調査)

時刻表&航路(多度津～高見～佐柳)

三洋汽船(株) 多度津営業所 TEL.0877-32-2528 ※車輦での乗船にはご予約が必要です。

多度津	高見	佐柳本浦	佐柳長崎	岩坪(岡山)
6:55	7:20	→	7:50	
9:05	9:30	9:55		
14:00	14:25	14:50	15:05	
16:20	16:45	17:10		
岩坪(岡山)	佐柳長崎	佐柳本浦	高見	多度津
	7:50	8:05	8:30	8:55
		10:00	10:25	10:50
14:30※	→	14:50※		
	15:05	15:25	15:50	16:15
		17:10	17:35	18:00

※注意:土曜のみ運航



三洋汽船フェリー「新なぎさ2」

多度津町への交通



お問い合わせ

多度津町 産業課・政策企画課
 香川県仲多度郡多度津町栄町一丁目1番91号
 TEL 0877-33-1113(産業課) TEL 0877-33-1116(政策企画課)
 FAX 0877-33-2550(総務課:代表)

【2017.2.1(H29)現在】



高見島

Takami Jima

佐柳島

Sanagi Jima



[多度津町 in 香川県(うどん県)]

懐かしい日本がここにあります

T a k a m i J i m a

高見島

詩情あふれる高見島

高見島は多度津町の西北7.4kmの沖合いにあり、浦・浜の二つの集落と板持集落跡からなる小島です。伝承では平家の落人が住み着いたのだとも、備前児島から移住してきて漁をしたのが始まりだとも伝えられています。

大半が山に覆われており、森林浴がてらに散歩をしているとひっそりと佇む高見八幡宮や龍王宮などに行き着きます。そして集落を歩けば、どこか懐かしさを感じさせる家並、のどかな優しい人々に出会います。

いつしか心和むのを感じ、詩の一つも書きたくなるような島です。



1 大聖寺

傾斜地の集落の中を散策していると、風情のあるお寺や神社を発見できます。小さな島にもかかわらず、島内には1ヶ寺、1神社があります。



2 石垣の集落

島の大半が山という高見島では、その傾斜を利用して家を建てています。浦集落は約30度という急な傾斜地に、高い石段を階段状に築いて集落を形成しています。

S a n a g i J i m a

佐柳島

美しくのどかな佐柳島

佐柳島は多度津町の西北14.8kmの沖合いにあり、本浦・長崎の二つの集落からなる小島です。伝承では豊臣秀吉の時代に制定された人名制において、高見島から本浦に7人の人名が移り住んだといわれます。

もう一つの集落長崎へは広島県や福山や笠岡諸島の真鍋島から移住してきたのが始まりだと伝えられています。

標高248.5mの高登山を中心とした南北に細長い島で、なだらかな斜面が美しいシルエットを作っています。自然あふれ、島の人も心優しくのどかな島です。



1 八幡神社

本浦に位置する八幡神社には、1824年(文政7年)奉納の北前船の模型があります。交易を成業としていた当時の佐柳島の人たちのようすを偲ぶことができます。



2 両墓制

佐柳島・高見島ともに土葬の風習のなごりからか埋め墓と参り墓の2つの墓で構成された両墓制になっています。特に長崎の埋め墓は埋葬した上に浜辺の丸い石をごろごろと盛り上げて作られており日本の埋葬の歴史を知るうえで大変貴重です。



3 大天狗神社

つづら折りになった石段を登り、山頂まで行くと、珍しい大天狗の石像があります。参詣すると、失せ物が見つかり、また、泥棒除けにもなるという言い伝えがあります。

歴史に名を残す 佐柳島・高見島



朱印状

人名制

塩飽水軍

瀬戸内海は重要な航路のため、朱印状を与えることで直轄として交易の実権や軍事戦略の要とされました。中でも信長に協力した秀吉の毛利征伐にも協力。この地域は陣営として組み込まれて、塩飽水軍として多くの戦で活躍しました。

廻船業

漁業

北前船

八代將軍徳川吉宗の享保の改革で、米輸送の海上権の独占からはずされてしまいました。そのため廻船業から漁師や網元に転業する者、出稼ぎに行く者、または北海道などの遠隔地との交易へ、北前船として活躍の場を広げていきました。

金比羅参り

多度津藩

弁才船

多度津藩が丸亀藩の支藩として独立して、港を開くことにより金比羅参りによる人の往来や交易が盛んになりました。この地の産業を支える海運の担い手が各島々にゆたわられました。

海外渡航

明治維新

威臨丸

江戸幕末、ペリー来航より7年後の1860年(万延元年)、勝海舟船長の威臨丸が日本初の渡米をしました。その乗組員の多くは塩飽諸島の出身でした。高見島(4人)、佐柳島(2人)。日本が海洋国として新たな幕開けをした、大きな一歩とされています。